

2021年11月28日（日）メッセージアウトライン「生きた信仰を歩んだ人々」

聖書箇所：ヤコブの手紙2：14～26

タイトル：「生きた信仰を歩んだ人々」

テーマ：ヤコブは、なお、信仰と行いの関係について話を進めています。行いが伴わない信仰を死んだ信仰と呼び、行いの伴う信仰を生きた信仰と位置づけています。旧約聖書から生きた信仰をもって神に従ったアブラハムとラハブが例として取り上げられています。

今日からクリスマスのアドベントの第1週に入ります。私たちが信じている聖書の神、三位一体の神こそ、行動される神であられ、口先だけのお方ではないことを「クリスマス」の出来事は如実に物語っているのです。神に背き、神との霊的關係を失った人間をご自身の許に再び引き寄せ、人を救いに導くための壮大なご計画を神はお立てになりました。

今日のテーマである「生きた信仰」の例としてあげられているアブラハムとラハブは、実は神のこの人類救済計画が成就するための大切な役割を担った人たちなのです。神のご計画は、神を信じ神に忠実に従った人々によって成し遂げられて行くと言っても過言ではありません。アブラハムとラハブの信仰の従順は、救い主をこの地上にお迎えするためにはなくてはならないものでした。

父なる神に全き愛と信頼をもって、徹底的に従われた救い主であられる神の御子イエス様のご生涯の全てに、私たちは神を信じるとはどういうことかという完全なお手本を見ることができます。

また、アブラハムとラハブは、私たちがどれほどとるに足りない者であっても、神を信じ、行いをもって信仰を証ししていく人生が、神の更なるご計画を進めていく上で、歴史のひとこまを埋める重要なパズルの一つのピースであることを証ししてくれているのです。

イエス様の父なる神への信仰と従順を学ばせていただきながら、イエス・キリストを信じる者の人生が、実はアブラハムやラハブの人生のように神のご計画を成就するために用いられているなら、何と心躍る人生でありましょうか。それを見てまいりましょう。

1. イエス・キリストが示された信仰のお手本

①父なる神への愛（ヨハネ15章）

*イエスはどのように父なる神への愛を示されたか

*キリストの愛の内に留まる秘訣

②キリストを愛する者が他者に示すべき具体的愛（ヤコブ2：14～17）

2. 信じていることは同じなのに... (ヤコブ 2 : 19, 20)

*佐藤宣愛兄の証しを覚えていますか？

3. 生きた信仰を歩んだ人たち

①アブラハム (2 : 21 ~ 24)

②遊女ラハブ (2 : 25, 26)

③救い主の家系に名を連ねる者とされた幸い (マタイ 1 章)

*「アブラハムの子、イエス・キリストの系図。アブラハムがイサクを生み、イサクがヤコブを生み・・・」と続く (1, 2 節)

*「サルマがラハブによってボアズを生み、ボアズがルツによってオベデを生み、オベデがエッサイを生み、エッサイがダビデ王を生んだ」と記されている (5, 6 節)

4. 結論

①信仰と信仰の行いは不可分であること。

クリスチャンの行いが神のご計画の推進のために不可欠であること。

②主イエスが示された、父なる神への従順の模範としてのクリスマス